

議事録

会 議 名	第7回松江市伝統文化芸術振興審議会
日 時	令和6年3月25日(月)14:00~16:00
会 場	松江市役所 3階「第1常任委員会室」 ※一部オンライン
出 席 者	委員
	出席委員 14名（欠席委員1名） 【出席委員】 垣内恵美子会長、小泉凡副会長、石橋淳一委員、伊藤万耶委員、大隅宏明委員、 小野亮委員、小林准士委員、園山土筆委員、高屋茂男委員、田中昌子委員、田中豊委員、 原田順子委員、森山俊男委員、山本一成委員 【欠席委員】 河野美知委員
	松江市(事務局)
	上定昭仁(松江市長) 松尾純一(文化スポーツ部長)、今岡広樹(文化振興課長)、 平塚久美子(文化政策係長)、木村志成(文化政策係主事)、 山崎和子(商工企画課特産振興係長)、森山淳(観光振興課観光係長)、 藤原雅輝(教育委員会次長(生涯学習課長))
次 第	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 会長あいさつ 4. 議事 (1)「松江市伝統文化芸術振興計画 第1期実施計画」について ①令和5年度事業の進捗状況 ②審議会委員からのご意見をもとに実施した取り組み ③令和6年度事業計画 ④令和6年度版松江市伝統文化芸術振興計画 第1期実施計画について 5. 意見交換 6. 閉会

1. 開会

(松尾部長)	- 今回の会議は一部オンライン会議とする。 - 審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、公開の会議とする。 - 議事録作成のため録音を行う。
--------	---

2. 市長あいさつ

(上定市長)	・ 今回の審議会では、10月以降の事業の進捗と令和6年度の事業計画についてご審議いただきたい。 ・ 昨年の5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから、活発にイベントや行事を再開できるようになった。 ・ 10月には「松江祭藝行列」や「松江怪喜宴」を4年ぶりにコロナ禍以前のスペックで開催することができ、また3月には、「第34回全国椿サミット松江大会」を開催することができた。こうして日常的に芸術文化に親しめる機会が創出できることを大変うれしく思う。 ・ 令和6年4月1日には、「総合文化センタープラバホール」がリニューアルオープンすることから、令和6年度の1年間はリニューアルオープン記念として様々なイベントを開催する予定である。 ・ また、令和6年度は松江市伝統文化芸術振興計画第1期実施計画が最終年度であるため、第2期実施計画を策定するステップアップの年でもある。 ・ 皆さまから引き続き、忌憚ない意見をいただいて「文化力を生かしたまちづくり」をしっかりと進めていきたい。
--------	---

3. 会長あいさつ

(垣内会長)	・ 今朝、国宝松江城を改めて拝見させていただいたが、素晴らしいお城であると再認識した。天気が悪い中ではあったが、インバウンドの方も含めて、多くの観光客が戻ってきていると実感した。 ・ 令和5年度は、これまでなかなか実施することができなかったイベントを開催され、令和6年度はそれに続いて盛りだくさんの事業があるということで、大きな期待をもっている。 ・ 本日は委員の皆さまから、様々な角度から積極的なご議論をいただければと思う。
--------	---

4. 議事

(木村主事、平塚係長)	・ 令和5年度事業の進捗状況及び審議会委員からのご意見をもとに実施した取り組み、令和6年度事業計画、令和6年度版松江市伝統文化芸術振興計画第1期実施計画について説明。
-------------	---

質疑応答

(園山委員)	〈質問〉 ・ 令和5年度のふるさと納税の「文化力コース」に、18,863千円の寄附が集まったとのことだが、集まった寄附はどのようなことに活用されるのか伺う。
(今岡課長)	〈回答〉 ・ 文化力コースにいただいた寄附については、当該年度の「市民美術展」などの文

	化事業に充当させていただくほか、ホーランエンヤなどの数年に1度の開催となる事業に充当できるよう、「文化振興基金」へ計画的に積立てている。
--	--

5. 意見交換	
(垣内会長)	・ 事務局からの説明を踏まえ、意見交換をお願いしたい。 ・ 委員一人ずつ発言をお願いする。
(石橋委員)	・ お城まつりなどのステージイベントで、松江の民俗芸能や伝統文化を披露する場があればいいのではないかな。 ・ 佐陀神能保存会では、毎年佐陀神能の特別公開を実施している。現在は席料をいただいているが、ふるさと納税の返礼品などを活用することで、無料で見ていただけるようにしてはどうかと考えている。 ・ 先日、松江市が行っている文化力体験推進事業で、親子に佐陀神能を体験いただいた。初めて体験をする機会を設ける意味では、いいものになったと思う。ただ、次世代への継承や後継者育成の観点では、単発的なものになることを懸念しており、費用対効果を含めて今後の課題ではないかな。 ・ 学校の総合的な学習などを利用して、こどもたちに伝統芸能を知ってもらう場を設けることや、指導者や諸道具などの整備に対する支援を検討いただきたい。 ・ 企業の伝統芸能への支援という観点で、長野県には「南信州民俗芸能パートナー制度」という取り組みがある。これは、民俗芸能の保存や継承に協力し、支援する企業や団体を県がパートナー企業として認定する制度である。パートナー企業には、民俗芸能継承のための各種協力のほか、従業員が民俗芸能に参加することを促進し、そのための休暇取得を促進することが協定で求められている。このような他自治体の先進事例を参考に、松江市でも取り組んではどうか。 ・ 市役所の人事異動に伴い担当者が変わると、今まで進めていたことが頓挫してしまうことや、考えが変わってしまうことがあり、事業の継続性が心配になる。長期的視点に立ったジョブローテーションや市の伝統文化芸術の推進体制を考慮していただきたい。
(伊藤委員)	・ 最近 YouTube で、松江市の動画をよく見るようになった。今後は、YouTube のショート動画や Instagram のリール動画などの短いコンテンツで、松江の魅力を発信してはどうか。 ・ 茶の湯文化について、私が東京から松江に来た時に、親戚の小学生がマイ茶筌を持っていたことに驚いた。せっかくのいい文化だと思うので、今後も、保育園や幼稚園、小学校での茶道体験を継続してほしい。 ・ こどもがイベントに参加すると保護者も参加する可能性が高い。ただイベントに来てもらうのではなく、こどもが伝統文化芸術を積極的に体験できるように、学校や保育園などに出張で行き、そこで触れることができる機会を提供いただければと思う。

	・ イベントでよくハンドメイド作品を出展しているが、こどもの参加者が多いイベントだと、販売よりもワークショップなどの方が人気ある。特に夏休み中のイベントはその傾向がとても強い。伝統や芸術というと、敷居が高く難しいイメージを持たれがちだが、夏休みなどにワークショップで伝統や芸術を体験し、こどものうちから文化芸術に触れる機会があれば、ハードルが下がるのではないかなと思う。 ・ プラバホールのリニューアルオープンにあたり、様々なイベントが企画されているが、プラバホールで定期的開催されている「0歳から参加できるコンサート」も、リニューアルオープンのプログラムにあればいいのではないかな。 ・ 小泉八雲の話をもとにした、こども絵画コンクールを開催してみてもどうか。 ・ 年に1回、国引きメッセで開催される「技能フェス」というイベントがある。これは、建築関係や造園、伝統工芸などの技術を実演で見ることができるイベントで、松江市の伝統文化芸術についても、実際にその技術を見ることができる機会があれば良いのではないかな。 ・ 外国人は桜が好きなので、松江城の桜をもっとアピールできればと思う。SNSは旬のものと合わせることで、再生数が伸びる傾向があるので、旬なもの合わせた投稿をするなどして松江をPRできればと思う。
(大隅委員)	・ プラバホールは令和2年度まで芸術監督が配置されており、それ以降は不在の状態であった。来年度のリニューアルオープン後は音楽プロデューサーが配置されると聞いている。この音楽プロデューサーは非常に重要な役割で、プラバホールの企画だけでなく、松江市内の様々な事業に足を運び、見聞きして繋いでいく役割だと思う。着任をされたら、ぜひ色々な話を聞きながら、活動いただければと思う。 ・ 文化事業を真剣に考えていくにあたり、行政の担当者が現場と同じ目線で取り組んでいただかないと、なかなかいい方向に進まないと思う。人事異動は理解しているが、ある程度の専門性を持った方が、現場の意識とまちのビジョンを持っていたいただかないと、せっかく積み上げてきたものが腰を折ってしまうことがある。そのようなことにならないよう、行政側の人材も育てていくことが必要ではないかな。
(小野委員)	・ 松江市の文化に関するアンケートやヒアリングの結果を見ると、やはり次世代への継承が非常に難しくなっていると感じる。これは松江市に限ったことではなく、日本全体で若い人が少なくなっているため、無理やりに継承しようとしても難しい。若い世代にも生活があり、そこに重心を置いてしまう。 ・ 伝統文化の継承も大事だが、なんとかごまかしながら続けていると、1000年以上の歴史があるなか、継承者不足でその歴史が途絶えてしまった岩手県の「蘇民祭」のように、大切な文化を失ってしまう。これからは、いかに伝統文化を記録して、後世に残していくのかを考え、しっかりと取り組んでいかなければならない。 ・ お祭りなどの無形の文化も継承が難しいのであれば、動きを記録する「モーションキャプチャ」を活用して、3Dのデータとして残すことで、今後継承したい人が

	現れたときにそれを参考にして学ぶことができるのではないかな。 ・ お祭りなどで、参加者目線でどのように感じたのか、どんな思いで参加したのかを SNS で記録しておくことで、100 年後それを見返した際に、その当時の思いや見方を理解することができる。SNS は主催者側の目線で記録してしまうことが多いが、お祭りはその周りの人たちも含めて文化であるため、参加した人たちの思いも含めた記録保存が大事になってくる。
(小林委員)	・ 松江市では市史の編纂をされていたが、その後もそれを検証する形で、様々な事業を展開されているのが良い。文化財の保存活用地域計画も策定され、かなり計画的に文化財の保存や活用が考えられており、今後もきちんと検証と事業展開がされていくのではないかと感じている。 ・ 地域には、地域の歴史を物語る重要な資料や文化財が眠っており、松江市ではそれを引き続き調査されているため、その成果が徐々に見えてきているように感じる。今後も調査を継続していただきたい。 ・ 松江歴史資料叢書が発刊されたが、その中で大野地区の方がご自身の家にある古文書を所蔵者として研究され、地域の歴史を探り、そして松江市の職員と共同で論文を書かれている。それをきっかけとして、大野地区の他の家の資料も調査も独自に取り組まれており、これに非常に感銘を受けた。これは、市民の方々がまだ知られていない文化財を大事にして、尚且つそれを活用・発信していく良い事例であるので、これをモデルとして広く展開できればと思う。 ・ 市民自身が文化財の保存活用の担い手になるように、行政や専門家だけではなく、引き続き市民とも連携をしながら、文化財の保存と活用に取り組んでいただきたい。
(園山委員)	・ KPI について、「しいの実シアターの利用者数」は、毎年2%ずつ増やすことが目標値として設定されている。他の目標値にも言えることだが、人口減少や少子高齢化が進んでいる日本社会で、来場者を毎年2%ずつ増やすこの目標に、一体どういう意味があるのか。第1期の実施計画は令和6年度で終了となると思うので、次の実施計画を策定する際には KPI の見直しをいただければと思う。 ・ 今は経済格差が激しくなっていると感じており、松江市内で年収が 150 万円以下の家庭のこどもたちは、2,500 人になるのではないかとわれている。そのこどもたちは、しいの実シアターやプラバホールになかなか来ることができないと思う。しいの実シアターでは、なるべく多くのこどもたちが、経済格差に関係なく伝統文化芸術に触れることができるよう、学校単位での団体鑑賞や国の補助金などを活用する方法をとっている。今後も文化施設と市が一緒になって、こどもたちが伝統文化芸術に触れる機会の提供に取り組んでいけるようお願いしたい。 ・ 会長の垣内先生は文化政策の専門家であり、統計と分析の専門家でもあるので、私や市役所の方が知らないデータをご存知かもしれない。ぜひ文化政策の専門家などのお話を聞く機会があればと思う。

	・ 条例を策定される際に、多くの市民から様々な問題点や課題をいただいたと思う。このようなご意見に対して、松江市として今後どのように答えていくのかお伺いしたい。
(高屋委員)	・ 本年の1月に、島根半島沿岸及び宍道湖・中海の漁撈用具が国の登録有形民俗文化財に指定された。このような地域の方々が大切に守り、寄贈されたものを継続して管理してきたことで、今回の結果に結びついたと思う。 ・ 島根県内の博物館や美術館で組織する、「しまねミュージアム協議会」でも、平成18年に「しまねの民具」という冊子を作成して、インターネットで公開をしているが、作成から10年以上たった今でも問い合わせがくる状況である。 ・ 今後はこのような民俗文化財についても、デジタルを活用して記録やPRしていただきたい。 ・ 令和5年度は、史跡出雲国分寺の国指定100周年等の周年記念があった。令和6年度も、松江市内や出雲市内の遺跡で国の指定を受けてから100周年を迎えるものがあるので、松江市や出雲市、島根県と連携を図りながら、古墳の年になるような取り組みを進めているところである。 ・ このような遺跡についても、地域の住民が長年守ってこられてきたものであるもので、島根県や関係団体と連携をしながらPRしていければと思う。 ・ 松江城の防災設備について、景観等にも配慮しながら改修計画を進めておられる。周辺の木造の橋についても老朽化が進んでおり、これについても景観に配慮しながら、木造で改修をされたところだと思う。県外から観光客がお越しになった時に、景観が損なった状態だと残念な印象を持たれるため、文化財等の改修にあたっては、景観にも配慮していただきながら進めることが大切だと考える。
(田中昌子委員)	・ 伝統文化芸術を次世代へつなぐことは非常に大事なことであるが、年齢や性別、国籍を含めた他世代にいろいろなことを体験してもらうことで、松江の文化が広がっていくのではないかな。 ・ 建築の分野では、スクラップアンドビルドという言葉の通り、古い建物は壊して新しい建物を建てる時代が高度経済成長期にあった。一方で、現在は古民家カフェのように、古い建物をうまく活用する動きが活発になってきている。ただ、古い建物を活用するには、新しく建物を建てるよりも知識と技術が必要になってくる。 ・ 高齢者やベテランの方になると、思いが強いあまり、若い世代に対して厳しい言葉を使ってしまうことがあるため、若い世代と対立することなく、古い技術や知識を繋いでいかなければならないと感じている。 ・ 古い店舗や住宅を活かしたまちづくりを進める中で、「まち」という言葉はひらがなで「まち」と表記するのか、漢字で「街」や「町」と表記するのかで、松江市の街並みも変わってくると思う。エリアごとに違っていいが、そういった点も考慮しながら景観やまちづくりを考えていただきたい。 ・ 30年ほど前に、都市計画の専門家の方が松江に来られた時、松江は箱庭みたい

	なまちだと言われた。まちの大きさや、綺麗に剪定された松、手すりのないお堀などを見ると納得できるものがある。 ・ 箱庭のようなまちを意識しながら、まちづくりを考えていくと、大掛かりなことをしなくても、色々なまちづくりができるのではないかと考えている。
(田中豊委員)	・ 令和6年度に計画をされている伝統芸能祭について、伝統芸能の支え手として頑張っている方の意欲を維持していくためにも、今まで出演してきた団体だけではなく、新しい伝統芸能団体の出演についても検討いただければと思う。 ・ 公民館の現場で感じることで、こどもやお年寄りも公民館の事業で伝統文化に触れる機会がある。しかし、働き世代などの若い世代に対してのアプローチは非常に難しく、機会の提供に苦慮している。 ・ 人材育成は、まず物に触れて、それをわかりやすく解説することから始まると考えている。自分の生活に追われて時間がない世代に対して、どのようにアプローチをしていくのか、知恵を拝借させていただければと思う。 ・ 島根半島沿岸及び宍道湖・中海の漁撈用具が国の登録有形民俗文化財に指定された。価値が認められて非常に喜ばしいことだと思う。島根町に資料館があるので、研究者などに提供するなどして、有効に活用していただきたい。 ・ 収蔵についても、海や宍道湖、中海など、使用されていたそれぞれ場所の近くで、人の目に触れるように常設で展示をすることがベストだと考える。デジタルの技術を活用して、バーチャルで見せることも必要だと思うが、そこで生まれ残されてきたものを、その場所で見ることができるのも大事だと考える。
(原田委員)	・ ふるさと教育予算が来年度も確保されており安心した。来年度もバスを借りる金額が上がると聞いているので、そちらについてもしっかりと予算を確保していただき、旧市内と旧市外で差が生じないように配慮いただければと思う。 ・ 各委員のご意見を聞いて、こどもの体験機会を持つことは非常に大切なことだと改めて感じた。今後は、ただイベントを開催するのではなく、松江城見学をした後に茶道の体験をするなど、イベント同士で抱き合わせをすることで、効率よく体験ができるのではないかな。 ・ まつえナビが導入されてよかったと感じるが、使い勝手の検証はしっかりすべきだと思う。広告は大変見やすいが、肝心のイベント情報は個人が投稿する形式なので、投稿しやすさや、入力したものがどのように反映するのかなど、細かいところまで検証していただきたい。新しいものばかりを作ると、どれを見ていいのかわからなくなるので、どんどん新しいものを作るのではなく、既存のものをどのように使っていくのかも大事。 ・ 補助金や助成金の周知がどのようにされているのか。みなさんに情報が届いておらず、知らないから申請数が少ないと言うような状況ではないのか。 ・ 来年度から部活動の地域移行が進んでいくと思う。地域や民間が受け皿となって、運動部を皮切りに文化部にも広がっていく。これからは個人で好きなことを選んでいく方向に進んでいくので、茶道や神楽などの伝統文化も、こどもたちが

	放課後に取り組める、部活動のような形に取り組んでみてはどうかと考える。
(森山委員)	・ どの分野にも共通することかと思うが、コロナが落ち着き、会合を開催するようになると、想像以上に高齢化が進んでおり、会員数も減少してしまったと実感する。後継者育成を今後どのように取り組んでいくかが課題と感じる。 ・ 観光客の方などから、見学では物足りず何か体験をしたいというご意見をいただいたので、明々庵ではツアー客を対象に、お茶の飲み方や礼儀作法の体験をはじめた。国内の観光客以外にもフランスやイギリス、台湾などの海外からの観光客も増え、茶の湯文化を体験いただいた。見るだけでなく体験をする大切さを痛感している。 ・ 明々庵に来る方は、インターネットや YouTube などを見て来たと言う方が多い。4月以降は SNS で情報発信をして、若い方の集客に繋がたいと考えている。 ・ まちあるきについて、橋北側ではカラコロ工房がリニューアルされて、様々な体験ができるようになると思う。対して橋南側は、お菓子やそばを作ることができる設備が整っている松江市市民活動センターが要所となると考えている。将来的に大橋川周辺が整備されると、ますます大橋川周辺に人が集まるようになるため、体験型サテライトオフィスなどを市民活動センター内に作り、松江の伝統文化芸術を体験できるようにすることで市民の方も集まり、観光客も通過型ではなく滞在型になるのではないかな。 ・ 明々庵では、結婚式の前撮りなどが増えており、たくさんの予約をいただいている。これからは古いものに新しさを加え、昔の良さを活かした空間作りが大切になってくると感じている。
(山本委員)	・ 県外からの観光客に、松江はアクセスが悪いと言われる。一方で、一度訪れるとあまりにも体験することが多く、リピートしたくなるとも言われる。 ・ インバウンドについて、コロナが明けてからはフランスやドイツなどヨーロッパからの観光客が多い。京都や鎌倉は混んでいて、地方でいいところがないか調べて松江を選んだとのことだった。また、3月からは境港に国際クルーズ船が寄港するようになるので、今後ますますインバウンドが増えていくと思う。 ・ 観光動体が団体旅行から、家族や個人などの小グループに変化した。また、旅行の仕方も、昔は旅行代理店を通じてすることが多かったが、今はインターネットで検索・予約して来られる。特に若い方や海外からの旅行者は SNS を見て来る方が多いと感じる。 ・ 松江を訪れる旅行者から、松江は魅力あるまちだと評価いただいているので、もっと長く滞在いただくために、いろいろな課題はあるが、職人商店街の創出が早く実現できればと思う。 ・ 後継者育成について、コロナを経験して堅実な生活を選ぶ方が多くなった。生活が不安定ということもあり、職人になる方はほんの一握りしかない。生活を安定させるために何か支援をいただければと思う。
(小泉副会長)	・ 怪談120周年事業の記念ロゴができたこと大変うれしく思う。怪談をローマ字で

	表記したことで世界の人にも通じるようになり、たくさんの人に使ってもらえるのではないかと。せっかくなので、松江市主催以外の事業にも活用していただければと思う。 ・ 先月、ニューオーリンズでマルディグラというカーニバルがあり、テーマが「小泉八雲」であったため招待された。姉妹都市というのは古い時代のやり方かと思っていたが、私が紹介される際に市長自身が、姉妹都市の松江から来たと100万人の観光客に向けて何回も言っていたことに驚きを感じた。 ・ 今年はニューオーリンズと姉妹都市になって30周年であり、10月には訪問団も来られるようなので、来年度のトピックにアイルランドだけではなくニューオーリンズもいれていただければ嬉しい。ニューオーリンズと交流することで、多様性を学ぶことが出来るので、松江のまちづくりにも生かせると思う。 ・ ネーミングライツを活用して、文化振興をすることは素晴らしいことだと思う。ただ、「さんびる文化センター」に名称が変わることで、違和感を持つ市民もいるので、しっかりと広く説明をしていただきたい。また、その収益については、音楽活動や図書館などをはじめ、文化の充実に充てていただきたい。 ・ KPI について、これからは団体数や会員数、入館者数を増やすのはかなり難しい。単なる来人数でカウントするのではなく、様々な実績を鑑みて KPI を設定する必要があると感じる。 ・ 最近、松江城や大橋川の周辺に高い建造物が建つ話を耳にする。まちづくりや文化芸術を振興していく人間としては、疑問に感じることが多い。法律に抵触していなくてもしっかりと管理ができる、いいまちづくりに向けたガイドラインを作成いただけると嬉しい。
(垣内会長)	・ 文化の分野はコロナの影響が長引いており、人流は戻ってきたとはいえ、これまでの課題が顕在化した。内閣府が行っている国民の生活意識に関する調査で、心と物質どちらの豊かさを求めるのかという質問がある。直近30年ぐらいは心の豊かさを求める方が6割以上で、文化も心を豊かにする要因の一つだったと思う。 ・ しかしコロナの影響を受け、経済状況が大きく変わったことで、令和5年の時点で物質的な豊かさを求める方が上回るようになった。特に10代～30代の若い世代の方々の生活にゆとりがなく、心の豊かさを求めることができない状況が見えてきた。 ・ 所得について分析をすると、お金持ちの方とそうでない方で2極分化している。このまま放置していると、お金を持っている方だけの文化になるのではないかと懸念している。物質的な面で苦労されている方々をどのように掘り上げていくのか、今後も工夫をしていかないと人々の半分の方が取り残されていくのではないかと。 ・ こどもたちの体験格差について、各家庭の経済格差が体験格差につながり、それがコミュニケーション能力の差など様々なことにつながるという研究がある。また、こどもの時に体験すると、その後の生活が忙しくなり一度遠ざかったとして

	も、生活に落ち着きとゆとりができた時に、戻ってくるとわかっている。所得の問題は文化だけで解決することはできないが、あらゆる状況を踏まえて、何ができるか考える必要がある。 ・ KPI について、現状は右肩上がりの数値となっており、アウトプットとアウトカムが混在している。そして、アウトプットをどんどん上げていこうという数値になっているが、本来はそうではない部分もある。 ・ また、目標値を達成できていない KPI が多い。要因は文化だけではない可能性があり、いろいろな調査をしていると、モビリティの問題は地方において大きく、行きたいがいけない場合や、時間とお金がかかりすぎる場合など、アクセスが制限されてしまうことがある。文化セクションだけでなく、関係部署と連携をしていただき、オール松江で取り組んでいただければと思う。
(上定市長)	・ 皆さんから忌憚のないご意見をいただき感謝する。 ・ 私からは全体像として、何のために「文化力を生かしたまちづくり」に取り組んでいくのか、私なりの解釈を共有させていただきたい。 ・ 松江市総合計画の最上段にあり、松江が2030年に向けて目指している姿は「夢を実現できるまち誇れるまち」である。松江の文化は、非常にユニークで優れており、我々が誇りと愛着を感じられるものというのが大前提にある。特に子どもたちがそれを知るか知らないかで、松江に対するイメージは大きく変わる。 ・ 現在、松江に育つ子どもたちには、ぜひ松江にある文化を知ってもらい、松江に対する愛着を持っていただきたい。そして、それが最終的に UI ターンや移住の促進、人口減少の対策などに繋がっていくと考えている。 ・ 特に今は、場所を選ばずに仕事ができる時代だからこそ、なぜわざわざ松江にいるのかという意味が語りやすくなっている。文化が入口となって、地域の振興や経済の発展に繋がっていくと考えている。 ・ 令和6年度は、親子で体験できるような事業を展開する予定である。親子が一緒になって1つのことに取り組む、そのきっかけが作りにくい時代の中で、文化体験がコミュニケーションツールの1つになると思う。また、松江にある文化をうまく活用することで、家族だけでなく多世代との絆を結びつけていく効果があると考えている。 ・ 松江市では、ニューオーリンズのマルディグラやアイルランドのセントパトリックスデーなどのような、国際交流のきっかけになるイベントを能動的に作っている。国際交流をきっかけとして、多様性を受け入れながら、他の文化に繋がりを持つきっかけを作る力を育てていくことができる。また、視野を広げ高い視点から物事を俯瞰して見られるようになると思う。 ・ プラバホールがリニューアルオープンするが、これまで文化や芸術にあまり関心がなかった方や、プラバホールに足を運んでこなかった方にも訴求できるような面白いイベントを企画している。 ・ 文化芸術は、触れること自体が楽しいことであり、心が豊かになるものである。

	さらには自分たちの夢が実現できて誇りが持てるまちに繋がっていく大きな要素である。今後も力を入れて取り組んでいきたいと思うので、引き続き皆様から様々なご意見をいただきたい。
(今岡課長)	【質問等に対する回答】 (KPI の設定について) ・ 現在の KPI については、発展的な希望をもった目標値を設定している。しかしながら実態に即していない部分があるため、今後は事業の質やいい内容のものを提供できるかという視点が重要になっている。単純な数で図ることのない KPI のあり方を次期実施計画の策定に向けて検討したい。 (専門性をもった職員の配置について) ・ 専門知識が十分でないために、皆様にはご迷惑をおかけしている。現体制においては、できる限り現地へ足を運び、現場の声を聴きながら事業を展開している。まずは現体制の中で、現場の声を聴く努力を続けていくので、引き続きご指導をお願いしたい。 (働き手世代への継承について) ・ ベテラン世代から忙しい働き世代へ、どのように文化を引き継いでいくのかは、非常に重要なポイントである。いろいろな分野の成功事例を調査し、松江でどのように展開していくのか皆さまと一緒に検討していきたい。 (情報発信について) ・ 松江市として情報発信に力を入れて取り組んでいる。特に海外の方は SNS で情報をキャッチして旅行をされている方が多くなっているので、今持っているものでいかにうまく発信していくか、ご意見をいただきながら改良を重ねていきたい。また、イベントを実施する側ではなく、参加する側からの目線で文化を記録・発信する手法についても考えていきたい。 (こどもの文化体験機会の確保について) ・ 文化力の体験事業を進めているが、事業提供する世代の幅や講師の方への継続性のある支援などについて、どこに力を入れて取り組むべきか、勘所を見極めながら実施していきたい。
(垣内会長)	・ 市長からは松江の文化政策の基礎となる部分についてお話を頂戴した。 ・ 事務局からの説明を踏まえて「令和6年度版松江市伝統文化芸術振興計画第1期実施計画」について、承認いただける場合には拍手をお願いする。 〈拍手多数〉 ・ 「令和6年度版松江市伝統文化芸術振興計画第1期実施計画」について、承認とする。 ・ 以上で予定していた議題はすべて終了する。事務局へお返す。

6. 閉会

(松尾部長)

- ・ 垣内会長と各委員に感謝を申し上げる。
- ・ 様々な知見から多くの貴重な意見をいただいた。第2期実施計画の策定に生かしていきたいと考えているので、引き続きご支援いただきたい。
- ・ 以上で、第7回松江市伝統文化芸術振興審議会を終了する。